



財政と金融の モラルの復興



財務副大臣 **藤田 幸久**

野田内閣で財務副大臣を拝命し、日本の運命を決するこの時期に与えられた過大な重責を感じながら、半年が過ぎようとしています。

私は大学卒業以来、MRA (Moral Re-Armament、道徳再武装) というスイスに本部のあるNGOと難民を助ける会というNGOで活動してきました。MRAは「人が軍備による再武装ではなく、自らのモラルと精神を再武装(復興)することによって、世の中を変える」という理念の平和活動で、戦後の独仏の和解や日本の国際社会復帰に貢献しました。創始者ブックマン博士は日本政府から叙勲しています。私は戦後のMRAの活動を著した本を翻訳しましたが、一万田尚登蔵相と渋澤敬三蔵相が熱心に活動しており、政界、財界、官界の指導者達が党派を超えて日本の再建に奔走する責任感と指導力に圧倒されました。そして、今の日本の財政危機や原発問題、リーマン以後の米国、ギリシャやユーロ危機を見る時、「財政と金融のモラルの復興」を実現しなければ、世界全体がカタストロフィーに陥るのではないかと強く感じます。

カンボジアの親友にサム・レンシー元蔵相がいます。彼は1992年の和平後の新政権最初の蔵相として、軍閥や地方豪族と戦い、長年非課税だった酒やたばこの関税導入を断行しました。また木材伐採の徴税権などを防衛大臣や地方の知事などからはく奪し、全ての国税徴収権を財務省に確立しました。彼は度々暗殺されそうになりましたが難を逃れました。財務大臣とは命がけの仕事だと痛感したものです。

カンボジアで最も尊敬する人が、ソン・サン元首相です。1960年代中央銀行総裁だった彼は、シアヌーク殿下から財務大臣も兼務するよう命令を受け、それは利益相反であるとして断ったために罷免されました。私は日本銀行の金融政策決定会合に毎回出席しており、2月14日に「1%の物価上昇のめど」と「十兆円の追加金融緩和」を決定した会合では、身震いしながらメモを取りました。財務省と日銀は緊密に連携してデフレ対策などに当たらなければなりません。他方、政府と中央銀行の立場の違いに注意しながら、お互いにベストを尽くすべきことをソン・サン元首相の行動が示唆してくれます。

私はまた、Small Groupという朝食会のメンバーです。元々米国の議員、財界人、官僚などが内外の様々な問題について意見交換する朝食会が各国に広まったもので、日本では津島雄二元厚労大臣、谷垣禎一元財務大臣などが創設したグループです。この幹事役をしているのが山崎高司元IMF理事と中田一男元北海道開発庁事務次官です。この人脈から森田一元運輸大臣、越智通雄元経企庁長官、古川元久国家戦略担当大臣、熊澤二郎元東京国税局長、五十嵐貞一元大阪税関長など大蔵省OBが多数出席しています。私は山崎さん達を「こんなに親切で、細かい気配りができ、すぐに行動する人達だが、大蔵官僚には極めて異質の人なのだろう」と見てきました。しかし、今財務省の皆さんと仕事をしていて、これは財務省全体の資質なのだと感じます。そうした人間味のある人々が真面目に天下国家のために仕事をしているという実像を、世の中に伝えていきたいと思います。

財政と金融のモラルの復興に、国民の理解と支援が最も必要な年ですから。